

# 採卵鶏の新しい「平飼い」形式

畜産技術センター

## 要旨

家畜福祉を考慮したEUの採卵鶏飼養形式を応用・改良して、従来の「平飼い」形式の欠点である衛生面を改善し、生産性もケージ飼育に比べて遜色のない新たな平飼い鶏舎を考案した。

## 成果の概要

- ① 床面はエクスパンドメタルとし、鶏糞はピットに落下、スクレッパーによる除糞を実施できる。また、高さの違う止まり木を配置し、それとともに餌樋、ニップルドリンカーを立体的に配置し、鶏の行動の自由度が高い(図1、写真)。
- ② 新鶏舎が備えるべき条件は、採食スペースの確保、行動の自由、悪癖の防止、安心できる産卵場所の確保、床面からの汚染の防止等。飼養羽数は、1羽当たりに必要な餌樋と止まり木の長さ(14～15cm)、飲水器の個数(0.3～0.4個)など、鶏の生存に直結する環境条件を優先して決定する。
- ③ 生存率は通算で95.9%と通常のケージで飼養する場合の96.0%と差がない(表)。
- ④ 産卵率は21～80週齢では75.9%とケージ飼養と大差なく、通算の平均卵重は64.2gとケージ飼養より重くなる(図2)。

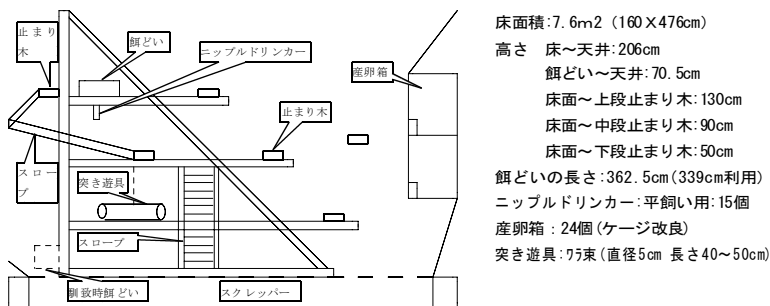


図1 平飼い鶏舎の仕様

表 育成率及び残存率の推移 (%)

	育成期(週齢)		成鶏期(週齢)			通算
	13～16	17～20	21～40	41～60	61～80	
平飼い 育成及び残存率	100.0	100.0	100.0	97.8 (外傷による除外)	97.7 (卵嚥 死亡)	95.6
ケージ飼養 育成及び残存率	100.0	100.0	100.0	100.0	96.0	96.0

( )内は除外及び死亡原因

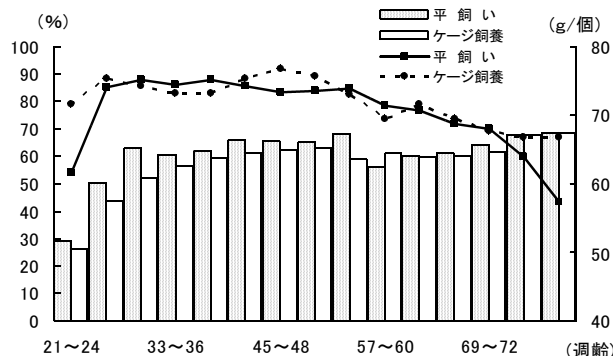


図2 産卵率と卵重の推移



写真 鶏舎の改修事例

(問合せ先: 0773-47-0301)